様式第７号（第８条関係）

２０２６年　２月　12日

（あて先）三鷹市議会議長

議員行政視察に係る結果報告書

会派名　立憲民主緑風会　　代表者名　岩見　大三

１　視察年月日	2026年　2月　9日（月）～ 2026年　2月　10日（火） （１泊　２日）
２　視察者氏名	岩見大三　おばた和仁　髙谷真一朗　谷口敏也 計　４　人
３　視察先及び視察項目	（１）　兵庫　都・道・府・㊀　加古川　㊂・町・村
	ア　加古川グリーンシティ防災活動について
	（２）　兵庫　都・道・府・㊀　たつの　㊂・町・村
	ア　「通学支援事業～ランドセル用背あてパッドの配布～」について
４　視察結果等	（１）　加古川グリーンシティ防災活動についてでは、現地で防災会の会長他3名様から長年にわたる防災活動の取り組みや防災井戸等を視察した。 （詳細は、別紙「加古川グリーンシティ防災会視察報告書」のとおり） （２）「通学支援事業～ランドセル用背あてパッドの配布～」については、たつの市役所で教育委員会の方から事業導入の経緯や現状の各学校における冷凍庫の取り扱い等の話を聞いた。 （詳細は、別紙「児童向け「ひんやり背あてパッド事業」視察結果報告書」のとおり）

※参考　２月 10 日、株式会社セイバン（兵庫県たつの市）



加古川グリーンシティ防災会 視察報告書

1. 視察の目的

加古川グリーンシティ防災会は、7棟・584世帯（約2,000人）が参加する全国的にも先進的な自主防災組織であり、総務大臣賞をはじめ多数の表彰を受けている。本視察では、同会が実践する「生活に溶け込む防災」「楽しく参加できる防災」の仕組み、ならびにソフト・ハード両面の総合的な防災体制を調査し、三鷹市における集合住宅防災の強化に資する知見を得ることを目的とした。

2. 組織の概要

加古川グリーンシティ防災会は、阪神・淡路大震災を契機に1998年に設立された。マンション管理組合の自衛消防隊・防犯委員会を統合し、全住民参加型の防災組織として運営されている。

主な特徴

- 全世帯参加型の自主防災組織
- 「楽しく防災活動をやろう」を理念とした住民参加の促進
- IT・通信設備を活用した多重的な情報伝達体制
- 子どもから高齢者まで参加できる仕掛けづくり
- 防災井戸、マンホールトイレ、AED等の充実したハード整備

3. 主な取り組み内容

3-1. ソフト面の取り組み

（1）コミュニティ形成

- あいさつ運動、小さな親切運動
- ふれあい餅つき大会（炊き出し訓練を兼ねる）
- 町内チャンピオンマップ（特技・資格の登録制度）　→ 住民の特技・資格（医療・介護・電気工事・通訳・防災士等）、災害時に提供できる支援（力仕事・見守り・炊き出し等）、さらに高齢者・障がい者・乳幼児世帯などの要支援者情報を登録し、地図上で可視化する仕組み。災害時に「誰がどこで何ができるか」を即座に把握できる。

（2）次世代育成・防犯防災活動

- 子どもと合同の夜回り
- 自警団の設立
- 市民救命士の養成、応急手当普及員による啓発

（3）災害対応力の向上

- 非常持ち出し本（DIB）　→ 家族構成、持病・薬、緊急連絡先、避難行動計画、持ち出し品リスト、写真・地図などをまとめた“個人用防災手帳”。DIG（災害図上訓練）と連動して作成される点が特徴。
- あんしんカード（あったかード）　→ 高齢者・障害者などの要支援者の健康状態、支援してほしい内容、緊急連絡先、近隣協力者などを記載し、災害時に迅速に支援できるよう平時から把握するためのカード。
- DIG・R-DIG（災害図上訓練）※DIG＝Disaster（災害）Imagination（想像力）Game（ゲーム）の略　R は Risk（リスク）の略
- 安否確認マグネットシート、災害カードゲームの開発

（4）参加しやすい仕掛けづくり

- 1000 円出しの会（気軽な防災会議）　→ 参加者が 1000 円を持ち寄り、軽食を囲みながら気軽に防災について語り合う会。若年層も参加しやすく、防災を日常の延長として捉える工夫。
- サッカーワールドカップ観戦会
- 防災インターネットラジオの運営

→ 防災を“特別な行事”ではなく“日常の延長”として位置づけている点が特徴的である。

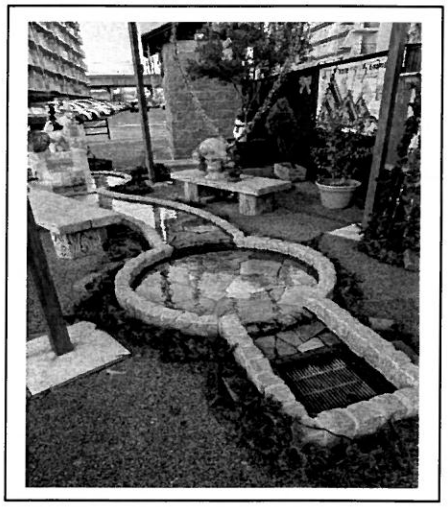
3-2. ハード面の取り組み

（1）情報伝達体制の整備

- グリーンネット（緊急情報伝達システム）
- ニューメディアシステム（エレベーターホールで情報配信）
- 防災デジタルコミュニティ放送（d ボタン文字放送）
- 携帯向け防災情報サイト　→ 当初はガラケー向けに整備されていたが、スマートフォン普及に伴い、現在は運用を終了している。防災情報の発信は、自治会 LINE、メール配信、インターネットラジオ等、スマートフォン向けサービスへ完全に移行している。

（2）防災・防犯設備の整備

- 防災倉庫、防犯カメラ・ネットワークカメラ
- AED の複数設置
- 防災用無線機、各種防災資機材
- 災害時役割シールの全戸配布



（3）災害対応設備の整備

- 防災井戸（1 号・2 号）
- マンホールトイレ、組立式簡易トイレ
- 災害弱者用昇降装置（キャリダン等）

- エレベーター耐震強化、高置水槽撤去による軽量化　→ エレベーターの耐震補強（自動停止・閉じ込め防止、ガイドレール補強、制御盤耐震化）により地震後の早期復旧を可能とするほか、屋上の高置水槽撤去により建物の揺れを軽減し、倒壊リスクを低減する。

→ 集合住宅の弱点を補うための設備投資が徹底しており、災害時の自立性が高い。

4. 視察から得られた知見

（1）「楽しく参加できる防災」は参加率向上に極めて有効

餅つき大会や観戦会など、防災色を前面に出さないイベントが住民の自然な参加を促している。
→ 三鷹市でも、日常イベントに防災要素を組み込む手法は有効と考えられる。

（2）住民の特技・支援ニーズの可視化は災害時の即応性を高める

町内チャンピオンマップやあんしんカードにより、平時から「助ける人」「助けられる人」が把握されている。 → 三鷹市でも、自治会・管理組合と連携した登録制度（助ける人・助けられる人の双方を登録する仕組み）の導入検討を進める必要がある。

（3）IT を活用した多重的な情報伝達は集合住宅に不可欠

テレビの空きチャンネル活用、ネットワークカメラ、携帯サイトなど、複数の伝達手段が整備されている。 → 三鷹市でも、アナログとデジタルを組み合わせた情報伝達体制の強化が必要。

（4）ハード整備の徹底が“自立型マンション”を実現

防災井戸、マンホールトイレ、AED、防災倉庫など、災害時に外部支援を待たずに対応できる体制が構築されている。 → 三鷹市でも、マンション防災設備の整備支援制度を検討する余地がある。

5. まとめ

加古川グリーンシティ防災会は、「楽しく」「日常的に」「全員参加で」防災を進める全国屈指のモデル組織である。特に、生活に溶け込む防災、IT を活用した情報伝達、住民の特技・弱者支援の可視化、ハード整備の徹底は、三鷹市の集合住宅防災にも大きな示唆を与える。今後、三鷹市においても“生活防災”を軸としたマンション防災の強化を進めることで、地域全体の防災力向上につながると考える。



児童向け「ひんやり背あてパッド事業」視察報告書

1. 視察の目的

三鷹市では、会派所属議員による一般質問を通じて、児童の暑さ対策としてランドセル背あてパッドの導入を検討することを市側に提案した。これを受け、市が導入可能性を本格的に検討することとなり、先行自治体である姉妹都市・たつの市の取り組みを視察し、円滑な導入・運用に向けた実務的知見を得ることを目的として実施した。

2. たつの市役所（教育委員会）での主な学び

（1）導入の背景

- たつの市の児童は平均で「往復１時間」の登下校時間を要する。
- 当時小学５年生の男児が「夏の登下校がつらい。助けてほしい」と市長に手紙を書いたことが契機となり、導入が検討された。
- 市長がこの声を重く受け止め、教育委員会と市内事業者であるセイバンが協議のうえ導入が実現した。
- 子どもの声が政策を動かした好事例として評価できる。

（2）運用体制

- 各校に業務用冷凍庫を設置し、児童が自ら冷却・交換を行う方式。
- 冷凍庫容量不足は発生しておらず、運用上の支障はない。
- 教職員の負担は「ほぼゼロ」とのことで、日常業務に影響は出ていない。
- 衛生管理は個人袋方式（チャック式ポリ袋）で行われ、トラブルはほぼ発生していない。
- 冷凍庫内には児童が持参した熱中症対策グッズも保管可能。

（3）現場の反応

- 児童：涼しく快適で、登校が楽になったとの声。
- 保護者：熱中症対策として安心感が高い。
- 教職員：体調不良の訴えが減少し、授業への集中度も改善。

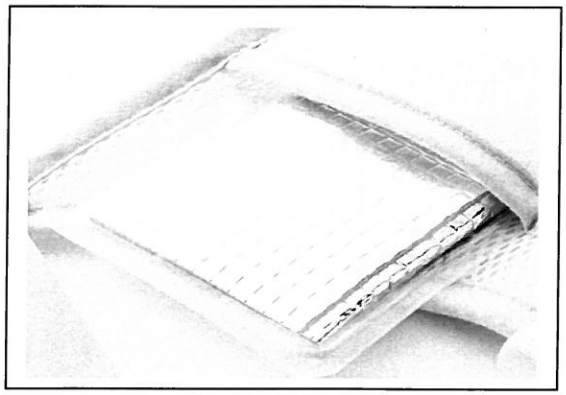
教職員から導入に対する実務上の不満が特に見られないのは、熱中症リスクへの関心の高さが背景にあると思われる。

（4）新たに把握した課題

- 高学年ほど着用率が下がる傾向が確認された。
- 理由として、恥ずかしさや必要性の感じ方の違いが挙げられる。

3. 三鷹市への示唆（たつの市視察から得られたポイント）

（1）導入効果の見込み



- 登下校時の熱中症リスク軽減
- 授業中の集中力維持
- 保護者の安心感向上
- 運用方法による教職員負担の最小化

（2）導入に向けた実務ポイント

- 三鷹市では冷凍庫の新規購入が必要。ただし電気工事は不要であり既存のコンセントで稼働可能のため設置ハードルは低い。
- 衛生管理は個人袋方式が有効で、トラブル防止に寄与する。
- 効果検証は保健室データやアンケートで実施可能。
- 高学年の着用率向上策（デザイン性、周知方法、任意利用の位置づけ等）が導入後の重要課題となる。
- たつの市で実績のある㈱セイバンとの連携運用することで運用マニュアル整備や改善提案が期待できる。

4. まとめ

たつの市における児童向けランドセル用背あてパッド配布の取り組みは、子どもの声を起点とした政策形成として価値が高く、猛暑対策としての実効性も確認できた。三鷹市で事業開始の際には、今回の視察で得た知見を踏まえ、円滑な導入と効果的な運用体制の構築をするため市に提言していきたい。

特に…

- 安全性の丁寧な説明
- 冷凍庫設置のスムーズな準備
- 高学年の着用率向上

が成功のポイントとなる。

